

1. アンケート調査の結果について（速報）

■調査の方法

- ・未就学児，私立・特別支援学校の保護者，一般市民は郵送。
- ・公立の小・中学生保護者へは各学校で配布及び回収。

■調査期間 平成 25 年 9 月 17 日～9 月 30 日

■調査の対象

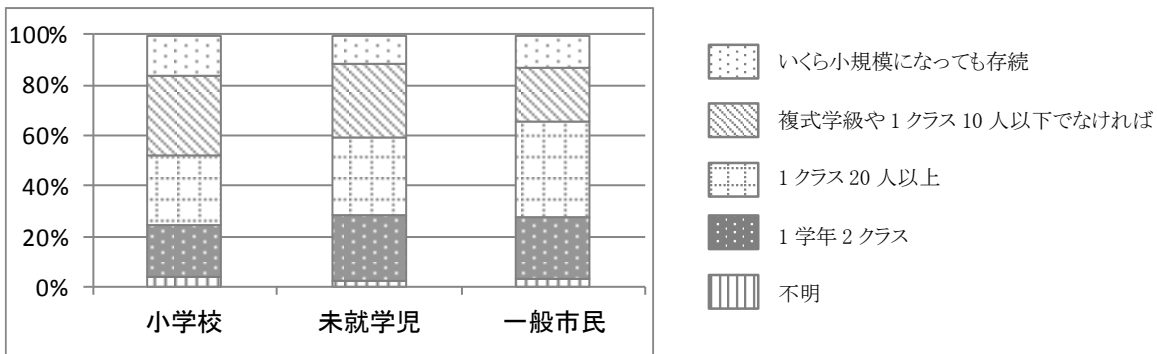
- ・公立及び私立の小・中学校に通う児童生徒の保護者及び就学前児童（未就学児）の保護者
- ・上記の対象者を除いた，市内在住 20 歳以上の一般住民を無作為抽出

■回収状況

	配布票数	回収票数	回収率
未就学児	1,573	644	40.9%
小学生(公立)保護者	1,879	1,497	79.7%
小学生(私立)保護者	8	1	12.5%
小学生(特別支援学校)保護者	14	2	14.3%
中学生(公立)保護者	1,037	800	77.1%
中学生(私立)保護者	100	45	45%
中学生(特別支援学校)保護者	10	0	0%
一般市民	3,050	1,024	33.6%
合計	7,671	4,013	52.3%

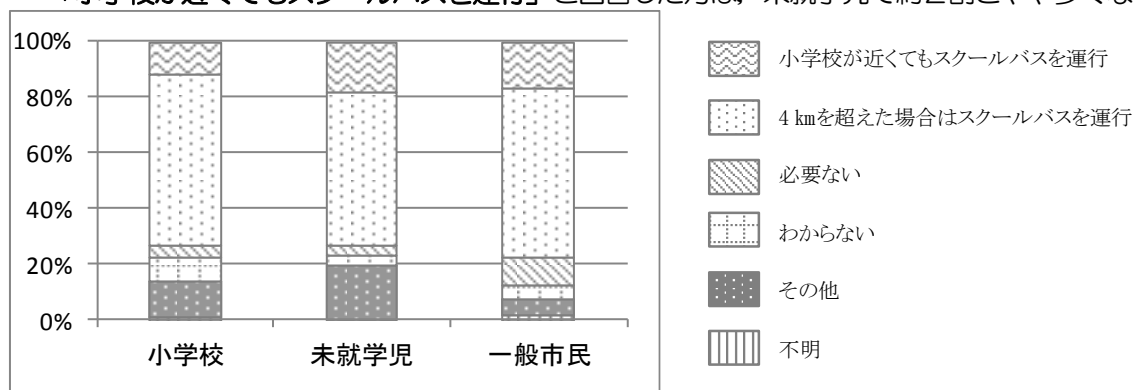
■小規模校の存続について

- ・これから小学校に入学する未就学児の保護者は「1クラス20人以上」との回答が最も多くなっていますが、「複式学級や1クラス10人以下でなければ小規模校を存続して欲しい」「1学年2クラス」の学校を望む回答も比較的多い傾向にあります。
- ・現在小学校に通学している小学生を持つ保護者でも「複式学級や1クラス10人以下でなければ小規模校を存続して欲しい」との回答が最も多くなっています。



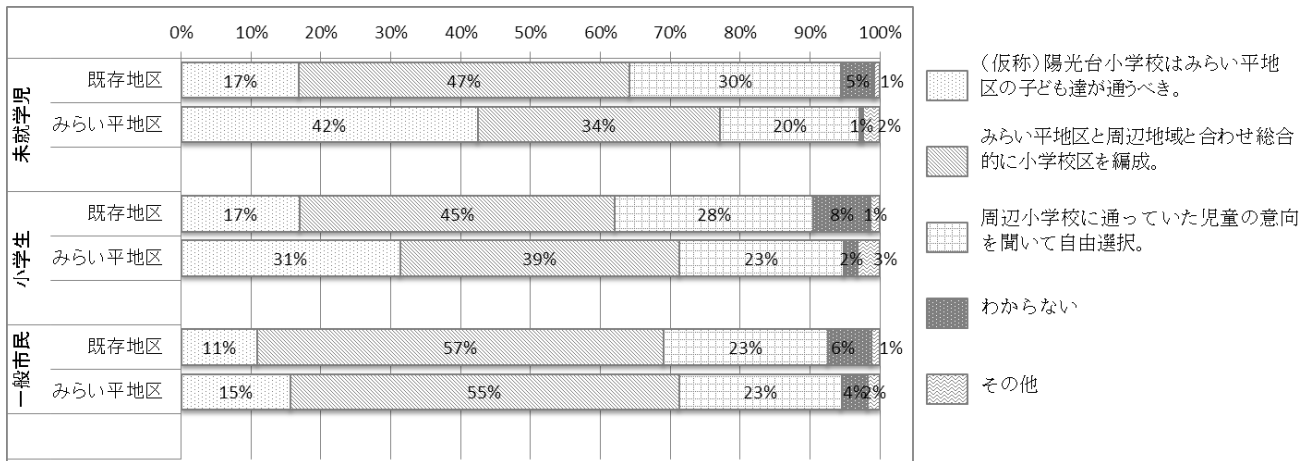
■小学校区の見直しや小学校の再編を行った場合のスクールバスの運行について

- ・未就学児，小学生の保護者，一般市民のすべての対象で「4kmを超えた場合はスクールバスを運行」すべきとの回答が約6割と最も多くなっています。
- ・「小学校が近くてもスクールバスを運行」と回答した方は，未就学児で約2割とやや多くなっています。



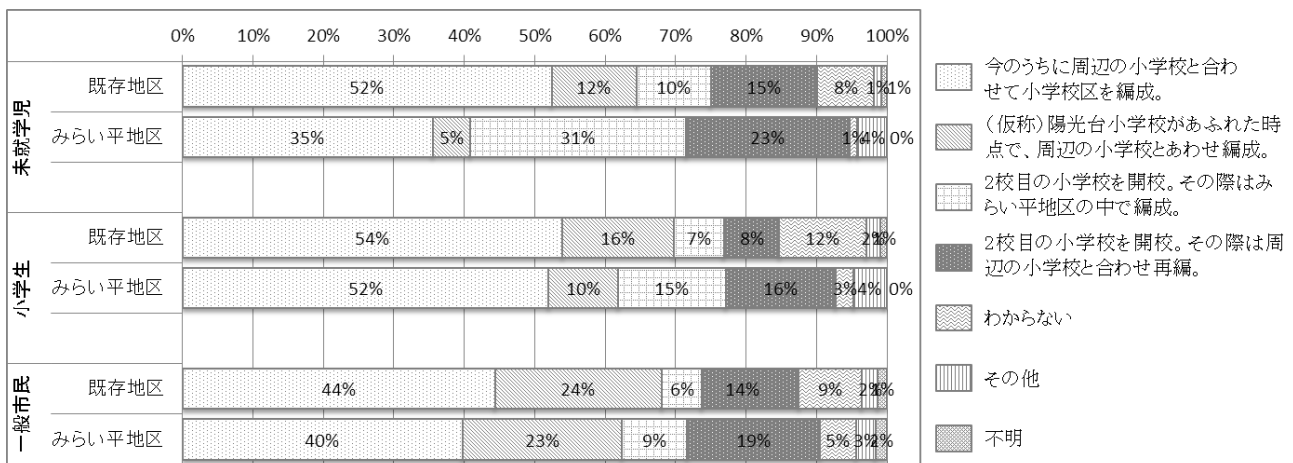
■(仮称)陽光台小学校の開校にともなう小学校区について

- これから小学校に通う未就学児の保護者のうち、みらい平地区の保護者では、「陽光台小学校はみらい平地区の子どもが通うべき」と回答した方が特に多くなっています。
- 既存地区の保護者では「周辺地域と合わせて総合的に小学校区を編成すべき」と回答した方が多くなっています。
- 小学生を持つ保護者は、みらい平地区の児童においても既に周辺地区の学校に通っているため、「周辺地区と合わせて総合的に小学校区を編成すべき」と回答した保護者が多くなっていますが、みらい平地区に比べて既存地区の方がその傾向が強くなっています。



■(仮称)陽光台小学校の児童数が溢れる場合の対策について

- これから小学校に通う未就学児の保護者のうち、みらい平地区の保護者では、「2校目の小学校を開校。その際はみらい平地区の中で編成」「2校目の小学校を開校。その際は周辺の小学校と合わせて再編」と回答した方が5割以上と特に多くなっています。
- 一方、既存地区の保護者では「今のうちに周辺の小学校と合わせて小学校区を編成」と回答した方が5割を超えて特に多くなっています。
- 小学生を持つ保護者は、みらい平地区においても既に周辺地区の学校に通っているため、「今のうちに周辺の小学校と合わせて小学校区を編成」と回答した保護者が多くなっていますが、みらい平地区では、2校目を望む保護者が3割を超えて多くなっています。



■ 未来平地区の生徒増加にともなう中学校区の考え方について

- 中学生の保護者のうち、未来平地区の保護者では、「未来平地区内に新設校開校。未来平地区を新たな中学校区とする」と「未来平地区内に新設校開校。周辺の中学校区と合わせて編成」と回答した方が6割と特に多くなっています。
- 一方、既存地区の保護者では「新設校は設けず、現在の中学校区を周辺の中学校と合わせて編成」と回答した方が多くなっています。
- 一般市民でも中学生の保護者と同様の傾向がみられますが、「新設校は設けず、現在の中学校区を周辺の中学校と合わせて編成」と回答した方の割合が特に多くなっています。

